

生理心理学のフロンティア

日 時 : 平成25年11月10日 (日) 14:00~17:15

会 場 : 専修大学神田校舎7号館3階 731教室

総合司会 : 石金 浩史 (心理科学研究センター研究員／専修大学准教授)

基調講演 : 立花 政夫 (東京大学大学院教授)

「網膜における視覚情報処理 -受容野概念をめぐって-

講演 1 : 岡田 隆 (上智大学教授)

「記憶の日内変動を司る生理心理学的基礎を求めて」

講演 2 : 小林 克典 (日本医科大学准教授)

「抗うつ作用の基盤としての海馬神経脱成熟」

研究報告 : 石金 浩史 (心理科学研究センター研究員／専修大学准教授)

平成25年度の第2回目のシンポジウムでは、基礎心理学領域の中でも生理心理学分野の研究者に講演を行っていただきます。講演は「視覚」・「記憶」・「抗うつ作用」といった身近なテーマとなっており、心理科学研究センターの研究テーマである「心の連続性を探る」に基づき、「脳と心の連続性」を最先端の科学的手法で解明する領域の研究成果を、センター員の研究報告も加えて社会に広く発信することを目的としています。基調講演では東京大学大学院人文社会系研究科より立花政夫教授をお招きし、「視覚」の初期過程を担う網膜における情報処理とその神経基盤に関する最新の研究成果をご紹介します。本シンポジウムは、脳機能と心の営みとをつなぐ生理心理学研究の成果を広く理解していただく絶好のチャンスであると考えています。

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成23年度選定事業

融合的心理科学の創成：心の連続性を探る

心理科学研究センター 平成25年度 第2回シンポジウム

『生理心理学の フロンティア』

趣旨説明

14:00 ~ 14:05

石金 浩史 心理科学研究センター研究員／
専修大学 准教授

基調講演

14:10 ~ 15:10

立花 政夫 東京大学大学院 教授
「網膜における視覚情報処理
ー受容野概念をめぐってー」

講 演

15:20 ~ 16:05

岡田 隆 上智大学 教授
「記憶の日内変動を司る
生理心理学的基礎を求めて」

16:10 ~ 16:55

小林 克典 日本医科大学 准教授
「抗うつ作用の
基盤としての海馬神経脱成熟」

研究報告

17:00 ~ 17:15

石金 浩史 心理科学研究センター研究員／専修大学 准教授

主 催：専修大学社会知性開発研究センター／心理科学研究センター

共 催：日本基礎心理学会

平成25年 **11月10日** (日)
14:00 ~ 17:15 (受付 13:30 ~)

専修大学神田校舎
7号館3階731教室

参加
無料



■ ウェブサイト・お申込み・お問合せ

■ シンポジウムウェブサイト (申込みフォームもございます)
http://www.senshu-u.ac.jp/research/lab/sidrc/h25event_sidrc/20131110.html

■ 申込み締切: 11月4日 (月)

件名を「11/10心理科学シンポジウム」とし、①氏名 (ふりがな)、②職業・所属、③郵便番号、
④住所、⑤電話番号を明記のうえ、下記のメールアドレスまたはFAX番号までお送りください。



専修大学社会知性開発研究センター事務局

e-mail: socio@acc.senshu-u.ac.jp TEL: 044-911-1347 FAX: 044-911-1348

※お申込み時にいただいた個人情報は、専修大学からのお知らせや連絡、または個人が特定できないようして統計処理等を行う目的で使用します。



ACCESS MAP

神田校舎住所 東京都千代田区神田神保町3-8

- 京線水道橋駅
西口より徒歩7分
- 地下鉄九段下駅
5番出口より徒歩3分
- 地下鉄神保町駅
A2出口より徒歩3分



【趣旨説明】

石金 浩史（心理科学研究センター研究員／専修大学准教授）

それでは定刻になりましたので、シンポジウムを始めさせていただきたいと思います。私は、専修大学人間科学部、心理科学研究センター研究員の石金と申します。よろしくお願いいたします。今回のシンポジウムは、「生理心理学のフロンティア」というテーマで開催させていただきます。今から趣旨説明をさせていただきたいと思います。

私達は、心理科学研究センターを設立し、幅広い心理学分野の研究を推進しています。今回は、その中でも生理心理学の分野について、先生方にお話を行っていただきます。

近年、神経科学の隆盛に伴い、心理学分野の研究者も積極的に神経科学の手法を導入するようになりました。今回のシンポジウムでは、心理学をバックグラウンドにお持ちの先生で、それぞれ神経科学分野で最先端の研究を行い、成果を挙げていらっしゃる方々にお話をいただきます。

基調講演では、東京大学の立花政夫先生に、初期視覚系の情報処理というテーマについてお話をさせていただきたいと思います。続いて、上智大学の岡田隆先生には、メラトニンが海馬と学習記憶に及ぼす影響、そして、日本医科大学の小林克典先生には、抗うつ剤が脳に及ぼす作用についてご講演いただきます。以上で趣旨説明を終わらせていただきます。

それでは、さっそく基調講演に移らせていただきたいと思います。立花政夫先生は、東京大学大学院の教授でいらっしゃいます。略歴を簡単に紹介させていただきます。先生は東京大学文学部心理学専修課程を卒業され、同大学大学院修士課程心理学専攻、慶應義塾大学大学院医学系研究科の博士課程を修了されています。その後、生理学研究所に入られて、その間、ハーバード大学医学部のTorsten Wiesel博士の研究室で研究員として仕事をされています。その後、東京大学助教授を経て、現在、東京大学大学院人文社会系研究科教授をされています。それでは、よろしくお願いいたします。



【基調講演】立花 政夫氏



【講演1】岡田 隆氏



【講演2】小林 克典氏



【研究報告】石金 浩史（心理科学研究センター研究員）